

実効性の高い防災対策を実現するためには？

対策の立案者や対応に当たる者が災害状況(時間別/状況別), および防災対策による効果を具体的にイメージできなければならない。

しかし,

一般的に災害状況を具体的にイメージすることは非常に困難であるため, イメージをサポートする情報提供が重要である。

今求められているのは,

過去の災害事例から得られた情報を, 様々な切り口から分析できる新しいデータベースの構築と, そこから得られた教訓を蓄積し, 共有できる環境の整備が求められている。

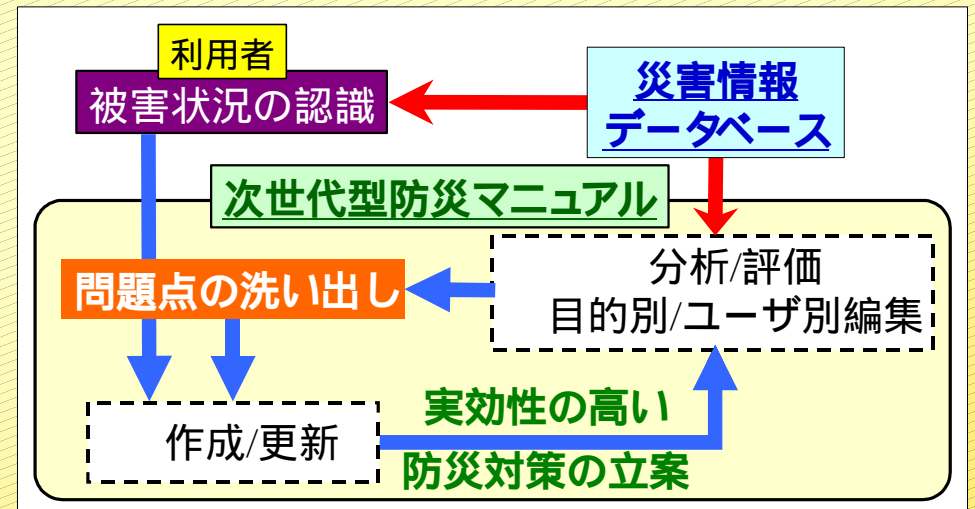
しかし現状では,

過去の災害調査報告書も, 教訓等も, 上記のような目的に合致した体裁を有していない。

そこで, 本研究では

防災マニュアル作成支援システム

総合的防災力を向上できる環境整備



災害情報データベースの概要

災害情報データベース

過去の災害事例から得られた情報
(ex. 新聞記事、調査結果、教訓)

- 蓄積
- 標準化
- 共有化

分析/評価機能, 目的別/ユーザ別編集機能

過去の災害情報を, 時間や空間, 対象や内容などの様々な切り口から分析/評価

発災後の災害状況のイメージを支援する情報として提供

実効性の高い防災対策の実現

各項目にINDEXの設定

対象となる組織 場所・地域 (二次元・三次元)
影響の空間的広がり 時間 キーワード群

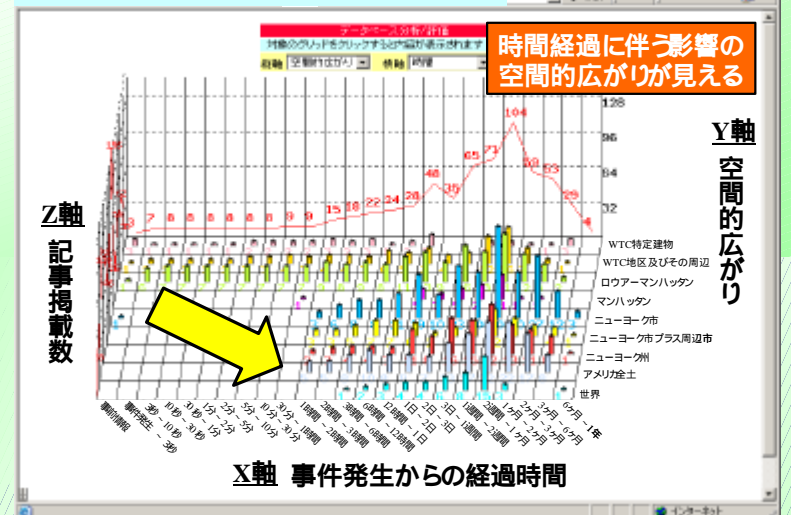
利用データ例

WTCテロ事件関連記事 (401項目) (New York Times 2001.9.12 ~ 12.31)
阪神・淡路大震災教訓情報資料集 (1225項目) (国土庁防災局 2000.3)

分析/評価機能

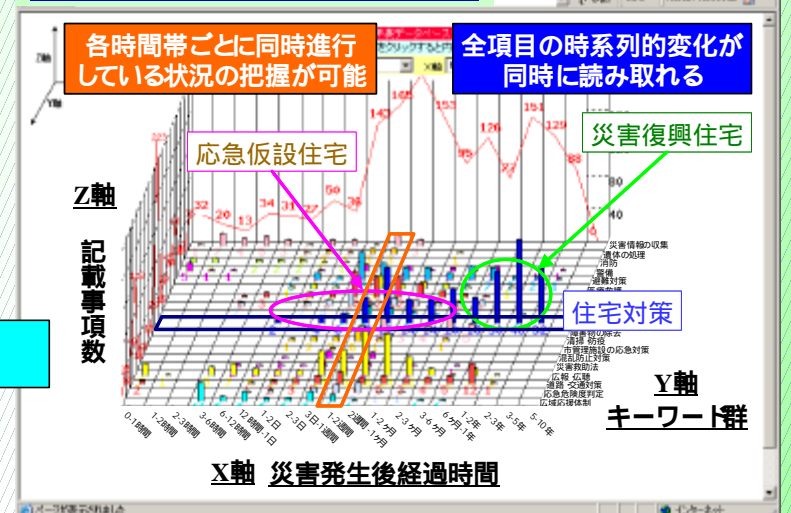
次世代型防災マニュアルの分析/評価ツールを用いることで, 時間や空間, 対象や内容など様々な切り口から, 各項目間の関係や全体としての内容などを, 合理的/客観的に分析し, 評価することが可能になる。

同時多発テロ事件分析例



時間経過に伴う影響の空間的広がり

阪神・淡路大震災分析例

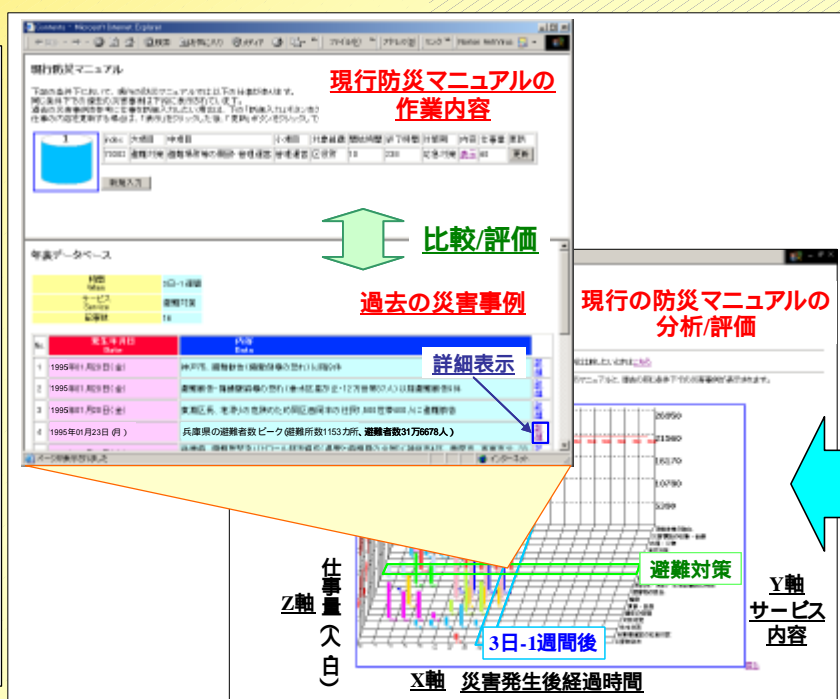


時間経過に伴う項目の内容の変化

マニュアル作成支援システム

次世代型防災マニュアルと災害情報データベースを連携することで, 過去の教訓や経験を踏まえて, 現行のマニュアルの評価と改良を行うことができる。

例えば災害発生から3日-1週間後の「避難対策」を選択すると, 上段に現行防災マニュアルの作業内容, 下段に災害情報データベースから得られた過去の災害事例が同時に表示される。そして, これらと比較することにより, 現行マニュアルの良し悪しを評価し, その評価結果に基づいてマニュアルを改良することが可能になる。



マニュアル作成支援システムの利用フロー